

大型加速器計画フォローアップの方法・視点(素案)

平成15年8月1日

1. 運転中の大型加速器(SPring-8、HIMAC)のチェック項目

- ・ 研究開発は計画どおり進捗したか
- ・ 施設の利用状況
- ・ 研究開発成果、副次的効果が得られたか
- ・ 外的条件の変化(学術・科学技術上、経済社会上)はあったか
- ・ 研究開発予算は適切であったか
- ・ 実施機関の研究開発能力は十分か

2. 建設中の大型加速器(J-Park、RBF)のチェック項目

- ・ 研究開発の目的・目標設定は適切であるか
- ・ 研究開発スケジュールは適切であるか
- ・ 研究開発成果、波及効果は期待できるか
- ・ 研究開発予算は適切か
- ・ 独創性、新規性は十分か
- ・ 実施機関の研究開発能力は十分か

3. フォローアップの方法・視点

- ・ それぞれの加速器計画につき1名の担当委員を選定する
- ・ 上記項目について、各委員が簡潔にコメントを作成する
- ・ 担当委員は、各委員のコメントを参考に、総合所見をとりまとめる
- ・ ネガティブチェックよりも指導的コメントの充実に主眼を置く

4.その他留意すべき点

- ・ 第1回加速器検討会資料第1-3号より抜粋

(1)大型加速器計画のフォローアップ

長計で取り上げた大型加速器のチェックアンドレビューに関しては、実施主体、所管官庁の自己評価を踏まえつつ、本検討会が主体となって実施する。

建設中の大型加速器（大強度陽子加速器や RI ビームファクトリー）に関しては、適時適切な進捗状況の把握に努める。

大学等の加速器（現在議論されている大きなものとしては中型放射光施設がある）や高エネルギー化を目指す加速器に関しては、所管官庁における十分な議論が必要。

すべての議論は、全国的な視野に立つて行うのみならず、国際社会の中の分担や競争も十分に考慮しながら実施する。

(2)中小型加速器の利用促進方策の検討

医療用加速器等の中小型加速器については、設置状態や利用状態を整理し、将来像に関する検討を行う。これらのデータを基に、中小型加速器の利用促進方策の検討を行う。

(3)長期的視野に立った加速器開発・利用の進め方

当面は上記（1）、（2）に記述した項目の議論を中心とし、時期を見て、全日本を視野に入れつつ、長期的視野に立った加速器開発・利用の進め方について議論を行う。また、個々の加速器を議論するにとどまらず、我が国としての加速器分野のあり方を長期的に検討する仕組みを検討し提案する。